

3 性に関する指導の強化

中学部になると身体的にも性的にも著しい発達が見られる時期で、それに伴う戸惑いや情緒の不安定も見のがせるものではない。そこで、日常生活の中での性に関する実態を見直し全教官が共通理解した上で、指導を行っていくように計画を立て実施した。

- ・授業中、汚れたナプキンを取り出して人に見せたり、いたるところに捨てる。(中3女)
- ・授業中もズボンの中に手を入れて性器いじりをする。(中1男)
- ・机や本箱にごすりつけてズボンの上から性器に刺激を与える。(中1男)
- ・体育館のマットの上に寝転んで自慰行為をする。(中2男)
- ・生理になるとイライラして自分の頭をたたく。生理の手当てができない。(中3女)
- ・生理がないのが気になり、いつもナプキンをしのばせている。(中2女)
- ・生理になると感情の起伏が激しくなりささいなことで泣きだす。他の子の生理が気になる。(中1女)
- ・男先生の股間に手をやり触ろうとする。(中1女)
- ・女生徒に触ったり抱きついたりする。(中3男)
- ・女の子としての自覚に薄く平気で下着姿でいる。(中1女)
- ・自分の性器をつついた手で他との身体接触を求める。他の人の胸、性器に触りたがる。(中1男)
- ・生理の手当てができない。生理時、特に不快を訴えないがタオルへの固執が強い。

- 1 個別指導、集団指導を並行して行う。
- 2 家庭との連携を図り、生徒や保護者の不安や悩みに取り組む
- 3 教官がまず性教育について研修する。
- 4 年間指導計画をつくり、全教官による取り組みを行う。

日常生活指導

- 1 身体の清潔に心がける。
- 2 同性による指導を基本に、生徒の性を大切にする。
- 3 十分に身体を動かす。
- 4 生徒の興味・関心を広げる。

特設時間における年間指導計画

1 学期	2 学期	3 学期
ぼくのからだ・わたしのからだ ・男女の性徴 ・性器の大切さ 社会生活とわたしたち ・人の前でよくない行為 ・エチケット	清潔な身体 ・手伝い ・性器の清潔と大切さ 大きくなる身体 ・第2次性徴	清潔な身体 ・性器の清潔と大切さ 誕生日 ・友達や自分の生命の大切さ 男女の助け合い ・男女間の思いやり ・男女間のエチケット



- 服装やことばや身体の違いなどに気づかせ、男女の特徴を知る。
- お互いの性を大切に育てる。

また、性に関する指導は家庭と連携をとりながら進めていかなければ、生徒に定着していくものではない。そこでまず、全家庭に対して性に関する調査を行いその結果をまとめた。

◎性に関する調査

- 1 対象 中学部全生徒の保護者
- 2 実施時期 7月中旬

性に関する調査

- 1 お子さんは性的なことに興味をもっているとおもいますか。もっていとすればどのような場面でそう思われましたか。
- 2 性に関する事で何か問題となる点、気になっている点はありませんか
- 3 2について現在、どのように対処していますか。
- 4 ア 男子について
 - ・自慰行為の有無
 - ・対処の仕方
 - ・夢精の有無
- イ 女子について
 - ・初潮
 - ・生理の周期及び生理時の状態
 - ・処理の仕方

5 その他
性の問題についての意見や要望

3 調査結果から

性的な関心をもっていると答えた保護者は全体の1/3で、TVや雑誌による性的な刺激を心配している。「どう対処していいのかわからない。子供と同性ならいいなと思う」「羞恥心のないことが、今後、問題をひきおこすのではないかと心配している」「自慰行為に対してどのように対処すればいいのかわからない」といった保護者の悩みが寄せられている。

一方では「性」というと何かエロティックであり、子供の性の発達について認めたがらない、または途中で避けて通りたいという保護者の感觸をうけとった。この結果より今後、子供の性の発達を再度個別にチェックすること、そして女子の生理の手当の指導をはじめとして男子の性器いじりやマスターベーションの対処等、家庭と連携をとり本人の指導はもちろん家庭の抱える性に対する悩みや問題についてこたえていかなければならないと話し合った。

そこでまず、教育自身が性教育の必要性を改めて確認し、共通理解するために学校医（精神神経科）を囲んで研修会をもった。性教育そのものを考えるのではなく、まず日々の実践の中からそれぞれの教育が抱えている疑問や悩みをとりあげていった。

<話し合い事項>

○中学部生徒の第二性徴の実態をどのようにとらえるのか。

- ・身体的特徴——行動
- ・その他、障害をあわせもつ子供達に見られる特徴

○障害児の第二性徴について

- ・知的能力、運動能力に劣っていても性の発達はノーマルなのか。
- ・自閉症の生徒に特に顕著に見られる性的行動（性器いじり）は、精神安定か幼児期の延長か第二性徴としての特徴か。
- ・自閉症の生徒の性行動（勃起）の刺激剤は何か。
（脳の働きと性衝動との関わり）

・障害児の第2性徴による精神的な動揺や不安定をいかに安定させるか。

○保護者から寄せられた疑問・悩み

- ・自分の肉体の変化に目は向いているが、それが異性への関心を意味するか。
- ・羞恥心はどのようにして育てるのか。
- ・子供が自分と異性の場合、どのように対処していいのかわからない。

また、障害によるものと自然の発達によるものとの区別がつかない。

「障害児も健常児も同じように性の発達はある」というあまりにも基本的なことからの確認であったが、性教育は真正面から取り組まなければならないという意を強くすることができた。

では、どのように具体的に指導を行うのか、個別の日常生活指導のねらいを設定することにした。

組	氏名	年齢	第二性徴	性に関わる行動	指導方針・手立て	備考
A	中1男	S 50 ・ 9 ・ 5	性器の勃起を認む。 ニキビ 急激な身長 の伸び。	排尿の前に性器をいじり、授業中、勃起した性器に刺激を与える。身体接触を求めなめたり臭いをかぐ。イライラあり。	非せつの指導 声かけをし注意を そらす。 「なめる」ことには 厳しく注意、拒 絶する。	
A	中1女	S 5.0 1.0 1.9	生理なし 乳房の発育 性毛	性器いじり。 身体接触を求め、男 性器にも触りたがる 関心強し。	清潔 非せつの指導 その都度、注意す る。	

特設時間を設けての授業実践の中では、直接、間接に性に対する子供達の反応が得られる。性の話と同じ学部の異性を意識して恥じらいうつむいてしまう者、はしゃいでどンドン意見をだす者、笑いこぼる者、くいいるように裸の絵をみつめる者、個別指導だけでは得られない子供達の性に対する関心の表出である。

今後は教材・教具をいかにわかりやすく視覚的にするか、学習集団構成のあり方をどうするか等、検討を加え授業実践を積みあげていきたい。また、それをうけて個別指導を行っていきたい。今年度は計画しながらも果たせなかった性についての教官と保護者の研修会をもちたいと考える。

4 コミュニケーションの確立

集団社会での社会自立を目指すためには何らかの伝達手段を持つことが必要である。長い目で、それを培い育てていこうとするのが、この指導の目標である。

そのためには、まず、生徒、教師、保護者が、もっと胸襟を開いて話し合い、ふれ合いを深めていくことが大切である。また、課題を持った個別指導も、家庭と連携をとりながら進めていかなければならないと考えている。

各種行事、月1回のPTA、直接の電話連絡の他に毎日の「生活ノート」も家庭との連携を進め、生徒とのコミュニケーションを確立させる大きな役割を果たしている。（「生活ノートからの抜粋」に示す）

子ども達はそれぞれの伝達手段を通して、自分たちをとりまく社会に働きかけをしている。その伝達方法は、ある時には誤解を生じ、トラブルを招くこともあるし、サインという方法であるために周囲から見逃されることもある。また、中学部の段階で、性の発達と同時に従来のサインや行動に別の意味あいが含まれ、伝達手段やコミュニケーションの方法が変わってくる子どもも多い。従って、従来のコミュニケーションのあり方を踏襲するのではなく、改めて、学校生活、家庭生活全般を通して、対人関係、サインの有無等を見直し、新たにコミュニケーションのあり方を問い直す必要がある。細かな生徒の変容に気づくためにも、学校での教師←→生徒の関係を放課後や余暇時間まで広げてふれ合い、対話を多くしなければならぬと考えている。